

たまねぎレポート【第427号】



令和5年5月26日

阪南青果株式会社

社内報

4月の日本の天候は、気温は北・東日本でかなり高く、西日本と沖縄・奄美で高くなった。降水量は西日本の太平洋側でかなり多く、北・西日本の日本海側と北日本の太平洋側で多くなった。日照時間は沖縄・奄美でかなり多く、北日本の太平洋側と東日本の日本海側で多くなった。5月の天候は、全国的に寒暖の差が大きい日が多い。

気象庁の6～8月の3か月予報では、平均気温は東・西日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、沖縄・奄美で高い確率50%。月別予報は次の通り。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の4月の野菜の販売量は、200,033トン前年比93%(前月比97%)平均単価はkg¥247前年比97%(前月比105%)。市場別には多少のバラツキがあるが、総じては販売量は前年比減、単価は前年比安となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg¥228前年比91%。東京市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg¥275前年比101%。名古屋市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg¥249前年比99%。大阪本場の販売量は前年比93%、平均単価はkg¥266前年比99%。福岡市場の販売量は前年比95%、平均単価はkg¥195前年比101%となっている。

建値市場の4月の玉葱の販売量は28,278トンで前年比129%、(前月比107%)、平均単価はkg¥129前年比43%(前月比106%)となっている。北海道と府県産の早生のバトンタッチが遅れ、前年比で北海物が大幅増で、府県産も増加傾向であったものの生育遅れで予想を下回った。輸入物も不作と価格高で減少した。平均単価は総体的には前年比43%の大幅安であったが、前月比では新物の増加で106%で強保合となっている。市場別では、札幌市場の販売量は3,465トン前年比129%、平均単価はkg¥106前年比55%。東京

市場の販売量は12,622トン前年比138%、平均単価はkg ¥110前年比40%。名古屋市場の販売量は5,621トン前年比111%、平均単価はkg ¥104前年比53%。大阪本場の販売量は3,974トン前年比140%、平均単価はkg ¥101前年比36%。福岡市場の販売量は2,596トン前年比116%、平均単価はkg ¥98前年比39%となっている。

東京都中央卸売市場の4月の野菜の入荷量は、110,653トン前年比94%（前月比99%）。平均単価はkg ¥275前年比99%（前月比101%）。旬別では上旬がkg ¥271で前年比101%、中旬が ¥276で前年比99%、下旬が ¥278で前年比103%、となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、タマネギが前年比138%。バレイショが102%の2品目だけ。入荷が前年比減の品目は、サトイモの前年比75%を始め、ナスが78%、生シイタケが83%、トマトが86%、ハクサイが89%など13品目となっている。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg ¥173で前年比136%、ナスがkg ¥427で前年比126%、ピーマンがkg ¥596で前年比121%など13品目。前年比安の品目は、タマネギがkg ¥110で前年比40%、バレイショがkg ¥204で前年比80%の2品目だけとなっている。

東京都中央卸売市場の4月の入荷量と単価

品目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	110,653	93.8	99.4	275	101.1	103.4
たまねぎ	12,622	137.6	128.6	110	39.9	81.5
キャベツ	17,438	90.1	100.3	106	100.2	124.7
はくさい	5,307	88.5	79.5	86	112.4	98.9

だいこん	8,455	89.7	95.1	99	103.6	110.0
にんじん	6,851	93.7	110.7	173	136.4	110.9
ばれいしょ	6,996	102.1	106.9	204	79.8	136.9
レタス	6,288	91.5	89.5	189	107.4	93.6
ねぎ	3,442	90.1	83.9	313	101.4	136.1
トマト	5,829	85.6	111.1	408	110.4	94.9
きゅうり	6,370	94.7	112.0	312	113.4	89.7
かぼちゃ	893	50.5	90.1	575	237.2	129.2
ながいも	633	69.0	90.3	408	156.8	104.3
れんこん	586	190.8	64.0	436	47.5	152.4
にんにく	219	100.9	93.6	883	82.6	110.5

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の4月の玉葱の入荷販売量は12,622トン前年比108%(前月比135%)。主力は北海物で入荷量は5,950トン前年比152%、占有率は47%で前年比4ポイントアップ。佐賀物は5,623トン前年比146%、占有率43%前年比2ポイントアップ。静岡物は366トン前年比130%、占有率3%前年比0.2ポイントダウン。長崎物は335トン前年比139%、占有率3%前年と同じ。総平均単価はkg¥110前年比40%(前月比81%)。産地別平均単価は、北海物はkg¥116前年比47%、佐賀物はkg¥100前年比33%。静岡物はkg¥111前年比45%。長崎物はkg¥100で前年比36%。となっている。

5月に入って、入荷は佐賀物が主力となったが、荷動きは鈍い。2L、Lはスーパーや業務筋に事前の売り込みがあり、それなりに動いているが、Mの動きが今ひとつである。市場ムードは、弱気配が支配し活気に乏しい。兵庫物が指定の卸に入荷しているが、ロットの関係で未だ佐賀物中心の販売で、兵庫物に売り残りが出ている。月後半には、近在の関東産地物も出始めるので、佐賀、兵庫物が中晩生に移行し、入荷減となっても品不足になる様なことはない。と見ている。今週(第4週)も佐賀物(七宝早生)主力で、産地JAでは、集荷場に在庫は存分にあり、6月上旬までの出荷ペースは変わらないと言う。未だ兵庫物の入荷は少なく、各卸とも勉売している。栃木物も入荷が始まり、ピークは6月前半になりそうだ。北海物は、契約のCA貯蔵物が入荷しているが、市況は採算れで苦勞している。

5月1日～20日の玉葱の販売量は8,413トン前年比132%。平均単価はkg¥101前年比41%となっている。佐賀物が主力となっているが、事前契約の影響か北海物が予想より多い。産地別の販売量と単価は、佐賀物が4,853トン前年比136%、平均単価はkg¥92前年比36%。北海物は1,951トン前年比205%、平均単価はkg¥131前年比63%。兵庫物は796トン前年比125%、平均単価はkg¥91前年比34%。千葉物は227トン前年比66%、平均単価はkg¥85前年比36%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の4月の玉葱販売量は5,621トン前年比111% (前月比86%)で前年比増、前月比減となっている。主力は北海物で、前月に続き北海物主導の販売となっている。北海物は4,035トン前年比139%、占有率は72%で前年比15%ダウン。愛知物は1,402トン前年比78%、占有率25%で前年比11ポイントダウン。静岡物は68トン前年比76%、占有率は1%

前年比1ポイントダウン。総平均単価はkg ¥ 104前年比53%(前月比91%)。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥ 102前年比71%。愛知物はkg ¥ 104前年比38%。静岡物はkg ¥ 131前年比53%となっている。

5月に入って、大型連休明けから荷動きは鈍化し、愛知・兵庫とも産地の希望値が高過ぎて売れていない。北海物も契約のCA貯蔵物だが、契約値と実勢価格が乖離し、採算割れで苦勞している。昨今では、愛知物は「七宝早生」が終了間際で荷動きはますますと言ったところ。来週当りからは、アドバンスに替るが、豊作と伝えられている。兵庫物は仲卸の注文分に合わせた出荷量を産地に依頼しているが、余剰分は安値販売となっている。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の4月の玉葱の販売量は3,974トン前年比140%(前月比96%)で前年比大幅増、前月比減となっている。特に、北海物が前年比273%で前月に続き激増している。産地別の販売量は、北海物が1,684トン前年比273%、占有率42%で前年比20ポイントアップ。長崎物は783トン前年比129%、占有率は20%で前年比1ポイントダウン。佐賀物は759トン前年比83%、占有率19%前年比13ポイントダウン。兵庫物は690トン前年比120%、占有率17%で前年比3ポイントダウン。総平均単価はkg ¥ 101前年比36%(前月比83%)。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥ 105で前年比48%、長崎物はkg ¥ 100前年比37%。佐賀物はkg ¥ 92前年比31%。兵庫物はkg ¥ 100前年比30%。となっている。

5月に入って、連休明けは荷動きが低調な上に入荷増で、表面相場に大きな値下がりにはなかったものの、下値の投げ売りが多発した。仲卸段階では、佐賀物から兵庫物への切り替えが進み、兵庫物が主力となった。入荷量の少ない大阪・愛媛物は何とか捌いたが、兵庫・佐賀物に売れ残りが発生した。今週に

入り、佐賀物の入荷減少で、兵庫物の動きに回復の兆しが見え始めた。その他の産地物も売れ残りはなく、完売している。

5月1日～20日の玉葱の販売量は2,637トン前年比123%、平均単価はkg¥87前年比36%。産地別では、兵庫物は1,271トン前年比102%、平均単価はkg¥83前年比34%。佐賀物は696トン前年比103%、平均単価はkg¥89前年比37%。北海物は437トン前年比722%、平均単価はkg¥105前年比70%、大阪物は138トン前年比199%、平均単価はkg¥68前年比28%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の4月の玉葱販売量は、2,596トン前年比111%(前月比109%)で、前年比、前月比ともに増となっている。主力は北海物で、販売量は1,265トン前年比298%、占有率49%前年比30ポイントアップ。長崎物は580トン前年比123%、占有率22%前年比1ポイントダウン。佐賀物は580トン前年比52%、占有率22%前年比28ポイントダウン。総平均単価はkg¥98前年比39%(前月比78%)で前年、前月比ともに大幅安となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥109前年比55%。長崎物はkg¥88前年比33%。佐賀物はkg¥86前年比31%。となっている。

5月に入って、連休明けから注文が減少し、販売に苦戦が続いていたにも拘わらず、産地は強気で高値販売を要求され苦労した。北海物は契約物の販売が残っており、受け皿となる売り先がなく困った。新着物でも発芽が散見され、売れ行き不振と品質低下に悩まされた。昨今、佐賀物は品種の変わる時期と天候不順の関係もあり、入荷は少なめで荷動きはまずまずの状況にあるが、相場を上げるほどではなく、保合状態である。北海物は契約のCA貯蔵物が入荷しているが市況安で苦戦している。

5月1日～20日の玉葱の販売量は1,481トン前年比115%、平均単価はkg ¥88前年比38%。販売量は前年比15%増で他市場に比べ増加率は低いが、平均単価は前年比38%で他市場と大差はない。

5月25日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量61トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,900～ L大 ¥2,000～

佐 賀 20kgDB2L ¥1,700～1,600、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,900～1,800。

【太田市場】 販売量308トン 強保合

北 海 20kgDBL大 ¥2,600～2,500、 L ¥2,600～2,500。

佐 賀 20kgDB2L ¥1,500～1,300、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,800～1,700。

栃 木 20kgNT2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,800～1,600、 M ¥1,700～1,500。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,500～1,400、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,900～1,800。

【名古屋北部市場】 販売量81トン 強保合

北 海 20kgDBL大 ¥2,600～2,500、 L ¥2,600～2,500。

愛 知 20kgDB2L ¥1,500～1,400、 L ¥1,800～1,700、 M ¥1,800～1,700。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,600～1,500、 L ¥2,000～1,800、 M ¥2,000～1,800。

【大阪本場】 販売量146トン 強保合

兵 庫 20kgDB2L ¥1,500～1,400、 L ¥1,900～1,800、 M ¥1,900～1,800。

兵 庫 10kgDB2L ¥750 ～ 650、 L ¥950 ～ 850、 M ¥950 ～ 850。

佐 賀 20kgDB2L ¥1,400～1,300、 L ¥1,800～1,700、 M ¥1,800～1,700。

愛 媛 10kgDB2L ¥600～ L ¥700～ M ¥700～

大 阪 20kgDB2L ¥1,200～1,100、 L ¥1,400～1,300、 M ¥1,400～1,300。

【福岡市場】 販売量119トン 強保合

北 海 20kgDBL大 ¥2,600～ L ¥2,600～

佐 賀 20kgDB2L ¥1,600～1,400、 L ¥1,800～1,500、 M ¥1,800～1,500。

佐 賀 10kgDB2L ¥750 ～ 650、 L ¥1,000～ 750、 M ¥1,000～ 700。

供給(産地)の動き

府県産の早生は、予想以上の豊作でいずれの産地も収量増で、4～5月期の市況は過去5か年の平均値を下回った。いずれの産地も出荷は後ズレ傾向で中晩生への移行は6月になる。主産地の兵庫(淡路島)を始め佐賀産地では、早生の過大球は市場から敬遠され、加工向けにストックしているところが多い。6月は中晩生主力の兵庫を始め関東産地などの中小産地の出回り時期となるが、いずれの産地の作柄も早生ほどではないが、豊作型と言われている。

府県の主力産地

佐賀では、早生の収穫はほぼ終了し、中晩生の収穫が始まっている。ペト病や軟腐病等の発生も散見されるが、大きな被害はないと予想されている。作柄は早生系の様な豊作型ではないが、平年作は上回ると見ている。多くの生産者は、5月市況が予想を下回ったことで、6月の市況回復を期待している。中晩生の短期貯蔵の「除湿乾燥」は26日から入庫が始まるが、JAでは前年を大幅に上回り、貯蔵庫が満杯になると見ている。商系筋も入庫の申し込みが多いと聞く。昨今の天候が高温多雨で、品質低下が心配との声もある。

中晩生の主力産地である兵庫(淡路島)では、早生系の作柄は大豊作で、反収は10トンから8トンに達し、私が産地を巡回した9日には、球肥大が、進み大きな物は直径13cm、重さ800gにもなっていた。過大球は市場から敬遠されるので、加工向けにストック(冷蔵貯蔵)をしている処が目についた。その後、1週

間後には、病虫害が広がり、圃場では葉枯れが目立ち始めたとの報告があり、此の先収穫が始まる中晩生の作柄予想は、豊作または平年作に下方修正されている。

北海道産地

いずれの地域も定植作業は予定通り終了し、初期生育は平年並み。と報告されている。ホクレンの5月20日現在の品種別作付動向調査では、作付面積は12,428.7ha前年比63.6ha減となっている。品種別では極早生824.8ha、早生4,817.9ha、中生6,540.7ha、晩生222.3ha、在来種23haとなっている。各地区の5月15日現在の生育状況は、石狩地方では、草丈は16.7cmで平年比3.8cm長い、葉数、葉鞘径は平年並みで生育は順調。空知地方では、草丈14.4cm、葉鞘径3.8mmで生育状況は平年並みで、移植開始は4/17、修了は5/2で平年並み。上川地方は、草丈14.2cm、葉鞘径3.8mmで平年並み、移植開始は4/22、移植終了は5/1で平年比2日遅れ。オホーツク地方は、草丈14cm、葉鞘径4mm、移植開始は4/19移植終了は5/5で平年並み。と報告されている。

輸入の動き

4月の輸入量は速報値で、18,981トン前年比69%。国別では、主力の中国が18,453トン前年比71%。ニュージーランドが270トン前年比10%。オーストラリアが175トン前年比22%。オランダが78トン前年比29%で、いずれの国からも前年比大幅減となっている。

中国、4月の主力産地は雲南省で、作付増で生育順調と報告されていたが、各国からの引き合いが増加し、値下りを予想した価格がC&F・\$11.00の逆高となった。5月の産地は河南省に移行し、作付増に加えて生育順調だが、各国からの発注が激減し、日本向け価格も20kg・C&F・\$5.00に暴落している。

6月の市況見通し

5月市況は産地の期待に反し、平年価格を下回ったことで、産地の出荷は後ズレ傾向にある。後続産地の関東産を始め各地の中小産地も、生育が順調で平年作を上回る作柄が予想されている。従って、市況の回復も後ズレ傾向となり、6月は堅調予想から強保合に後退しそうである。ただ、安値が続いた2L級は業務・加工筋の需要回復で、堅調に転じると予想している。（笹野敏和記）